

# 地域医療連携室だより

～ 第 18号 ～

大阪市立十三市民病院

## 地域医療連携室 室長 挨拶

今年、近畿地方の梅雨入りが 51 年ぶりに遅い年となりました。また早い時期からすでに 30 度を超す暑い日が続き、スコールのような激しい雨が降るなど不順な天候の多い年となっておりますが、貴院におかれましては益々ご盛栄のこととお喜び申し上げます。さて十三市民病院は今年で 70 周年を迎えます。これもひとえに地域の医療推進に向け支えていただいた諸先生方々のお陰と感謝申し上げます。今後もご支援の程を賜りますようによろしくお願い致します。



地域医療連携室長 小砂見 恵子

今年度も淀川区医師会との共催である「十三臨床談話会」、淀川区医師会後援の「十三トピックセミナー」、「市民公開講座」、地域連携会、地域連携パス連絡会など情報交換や学習会の場として様々な広報活動に力を入れてまいります。今後の決定しております予定を以下に紹介させていただきます。

- ◆8月8日(木)18時15分～20時15分 十三臨床談話会
- ◆9月11日(水)18時30分～19時30分 第8回十三トピックセミナー  
テーマ「高TG血症のリスクと最新の治療戦略」について
- ◆10月19日(土)10時30分～12時 市民公開講座  
テーマ「知って得する〇〇の話」
  - ・「夜間頻尿の話」 ～夜、ぐっすり眠るために～
  - ・「便秘の話」 ～おなかをすっきりさせたい～

今回の「地域医療連携だより」では、小児科、薬剤部、リハビリテーション科の紹介および活動状況を掲載させていただきます。

地域医療連携室では、受け入れ支援、退院支援、患者さん支援も従来同様に行なっておりますので、ご要望やご意見があれば地域医療連携室までお寄せ頂ければ幸いです。



# 小児科のご紹介

小児科部長 医師 平林 円

地域医療機関の先生方へ

平日準夜帯 17 時～20 時、土曜日午前の時間帯で、地域医療機関からの診察・入院依頼や通院患児の診察依頼に対応していますので、ご利用下さい。

令和元年度の小児科の診療スタッフは、常勤医師 3 名(部長:平林 円、副部長:齋藤三佳、副部長:川又 攻)、兼務医師 3 名(大阪市保健所本務:李 和幸、大阪市心身障害者リハセン本務:峯川章子;発達相談外来担当、関西福祉科学大学教授:藤岡弘季;神経外来担当)です。

外来診療は、午前一般外来を 2 診(初診・予約)で行い、午後は、予約制で月曜日は予防接種(交代制)、火曜日は 1 ヶ月健診(交代制)、水曜日は発育・発達のフォローアップ(平林)、木曜日に神経疾患(藤岡)の専門外来を開設しています。

## 診療科の特徴

外来、入院とも急性感染症が主体の急性疾患がほとんどを占めていますが、神経疾患、内分泌疾患などの慢性疾患を含め小児全般の診療を行っています。当科で対応困難な重症疾患、専門疾患などは大阪市立総合医療センター、大学病院などに紹介、連携して対応しています。発達相談外来は、保健センターから紹介された未就学児の発達障害児の診断・加療を行っています。小児の結核診療では、大阪市内の保健福祉センターと連携して接触者の IGRA 検査(インターフェロン  $\gamma$ 遊離試験)や潜在性結核治療(予防投与)を行っています。小児科常勤医師は NICU での勤務経験を有し、中等症までの病的新生児の診療に対応しています。

平成 21 年 8 月に WHO/ユニセフより“赤ちゃんにやさしい病院”に認定され、出生直後からの母児同室を原則とし、周産期病棟のスタッフを中心に病院全体で母乳育児、育児支援を推進しています。

## 薬剤部のご紹介

薬剤部は、患者さまに安全かつ効果的な薬物療法を提供することを目的とし、様々な業務を行っています。またチーム医療にも積極的に参加し、病院全体で安全でよりよい医療が提供できるよう努めています。

### 調剤業務

画像監査システム、散薬・水薬鑑査システム、錠剤自動分包器、散薬自動分包器など様々なシステムや機器を導入し、調剤過誤の防止に取り組んでいます。注射薬調剤は注射薬自動払い出し装置(ピッキングマシン)を利用して施用ごとに個人セットしています。

## おっぱい・子育てが うまくいくために 施設にできる 10のステップ

**Step1 病院の方針**  
乳児用ミルク・人工乳首や哺乳びんの販売促進をしません。  
データを把握し母乳育児を支援することをスタッフと親に伝えます。

**Step2 スタッフのスキル**  
スタッフはお母さんを支えるために勉強します。  
スタッフの知識と技術を把握し強化します。

**Step3 妊娠中からのケア**  
母乳育児の大切さと授乳のしかたについてお母さんとお話をします。  
気持ちに耳を傾け、自信を持って進めるようにサポートします。

**Step4 生まれたらすぐに**  
赤ちゃんとお母さんが肌であれあえるようにお手伝いします。  
できるだけ早くから授乳できるようにお手伝いします。

**Step5 授乳のコツ**  
赤ちゃんが深く吸いつきしっかり飲めるようにサポートします。  
母乳育児のトラブルに出会っても対応できるようにサポートします。

**Step6 赤ちゃんに必要なもの**  
医学的に問題がない限り赤ちゃんが飲むのはお母さんの母乳です。  
ドナーミルクや乳児用ミルクが必要なときは安全な使用方法をお伝えします。

**Step7 母子同室**  
お母さんと赤ちゃんは昼も夜も一緒です。  
赤ちゃんが病気の時でもできるだけ一緒に過ごせるようにサポートします。

**Step8 赤ちゃんに合わせて**  
赤ちゃんの空腹のサインがお母さんにわかるようにお手伝いします。  
母乳をあげるのに時間やタイミングの制限はありません。

**Step9 哺乳びんなどは?**  
母乳育児を始める時には哺乳びんや人工乳首おしゃぶりを使わない方がうまくいきます。

**Step10 退院のときに**  
母乳育児の助けになる地域のグループや施設を紹介します。  
卒乳までずっと支援を得られるように地域社会と協力します。

©2019 TEN STEPS プロジェクト

## がん化学療法関連業務

レジメンの審査、承認に携わり、その登録管理を行っています。調製前にはがん化学療法支援システムにて投与量、休薬期間等をチェックし、安全で適切な化学療法が行えるように努めています。調製は無菌室の安全キャビネットを使用し、外来、入院の全ての抗がん剤を対象としています。

## 病棟薬剤業務

各病棟の担当薬剤師が、入院患者さんに対して服薬指導(薬剤管理指導)を行っています。患者さんが、病気についてよく理解し、正しい知識を持って治療を受けていただくために、ベッドサイドへ伺って、薬の説明や、薬の効果、副作用、飲み合わせのチェックを行ったりしています。持参薬については、患者さんに聞き取りを行い、鑑別結果を持参薬オーダとして入力し、当院採用薬を薬剤コメントに入力するなど安全で効率的な運用に努めています。また、栄養サポートチーム(NST)、感染制御チーム(ICT)、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)、糖尿病カンファレンス、肝臓病教室、緩和ケア委員会、結核患者への服薬確認(DOTS)などに参加し、専門性を生かした業務を行っています。

これらの業務以外にも、DI業務、在庫管理業務、製剤業務、薬学生の教育などの業務に努めています。



## リハビリテーション科(作業療法を中心に)の紹介

平素は、地域連携パスや術後の患者さんのリハビリテーション目的での転院を受け入れていただき、誠にありがとうございます。現在の当院のスタッフは医師1名(整形外科兼務)、理学療法士4名、作業療法士1名、言語聴覚士(有期)1名の計7名です。2016年4月より作業療法部門を開設しております。今回は作業療法についてご紹介させていただきます。

当院作業療法は障害により制限された動作・能力・活動に対して作業活動を提供します。また患者さんが『その人らしい』生活を送ることができる過ごしやすい環境整備や様々な工夫をします。

作業療法の内容としては

### 身体機能訓練

主に上肢の麻痺や骨折、神経障害のなどに対して上手く動かせるように練習を行っています。

### 日常生活活動訓練

日常生活が送りやすくなるよう着替えや食事、トイレなどの練習を行います。やりにくい動作に対しては工夫を一緒に考えるなど、生活上のアドバイスも行います。



## 手作業、趣味活動

手のリハビリや精神の安定を図るために、手作業や趣味活動を行っています。

## 道具の工夫: 自助具

生活のしやすさを考え、道具の工夫やその人に合わせた道具を提供・製作(自助具)することもあります。

## 家屋、環境調整

必要に応じて患者さんの自宅へ訪問したり、手すり設置位置やベッドやポータブルトイレ等、福祉機器の導入など環境調整のアドバイスを行います。

## 連携病院・開業医の先生方へ

今後リハビリテーションの充実に努めていく予定ですので、近隣の先生方のご指導・ご鞭撻の程をよろしくお願いいたします。



## ドレットミル負荷心電図検査の一時中止のお知らせ

地域の先生方におかれましては、平素より地域医療連携のもと当院にご協力いただきましてありがとうございます。

この度、トレッドミル負荷心電図検査を一時中止とさせていただきます。今後、関係部署にて検討を行い、検査実施体制が整った際は再度ご連絡させていただきます。

誠に申し訳ありませんが、何卒ご理解の程、宜しく願い申し上げます。

### ～第31回十三臨床談話会のご案内～

#### (淀川区医師会・十三市民病院臨床談話会)

2019年8月8日(木) 18:15～20:15 9階すかいルーム

#### 教育講演 (18:40～)

「はじめての超音波ガイド下神経ブロックー当院での経験ー」

演者: 大阪市立十三市民病院

麻酔科 島田 素子先生

#### 特別講演 (19:10～)

「神経障害性疼痛に対する薬物治療と

ペインクリニックでの患者対応」

演者: 関西医科大学

麻酔科学講座 教授(区域麻酔担当)

中本 達夫先生

※ 大阪府医師会生涯教育講座を単位申請しております

### ～第8回十三トピックセミナーのご案内～

○ 9月11日(水) 18時30分～19時30分 9階すかいルーム

「高TG血症のリスクと最新の治療戦略」

特別講演演者: 神戸大学大学院医学研究科

地域社会医学/循環器内科学分野

特命教授 石田 達郎 先生

※ 大阪府医師会生涯教育講座を単位申請しております

#### 編集

大阪市立十三市民病院 〒532-0034

地域医療連携室 大阪市淀川区野中北 2-12-27

代表電話: 06-6150-8000

直通電話: 06-6150-8067